

日本庭園の系譜図一覧表 (赤文字：展示写真・青文字：PPTにて写真説明)

時代	①神仙蓬莱系譜	②池泉庭の系譜	③抽象枯山水系譜	④石組構成美系譜	⑤幾何学模様系譜	外来思想
	日本古来の石造造形					
区	盤座	水辺祭祀	古墳			
弥	松尾大社	城之越遺跡	巢山古墳			
古						
飛鳥	飛鳥京跡					神仙蓬莱
奈良・平安・鎌倉		東院 毛越寺				極楽浄土
		② 広大な池泉庭園の系譜	蘭溪道隆			禅宗思想
			③ 抽象枯山水庭園の系譜			
			龍門寺			
			夢窓疎石			
			瑞泉寺			
		西芳寺	永保寺			
		天龍寺	西芳寺			
		金閣寺	天龍寺	④ 京極庭園		
室町時代		銀閣寺	金閣寺	朝倉遺跡		
	旧秀隣寺		雪舟等楊	旧秀隣寺		
			常栄寺	北島神社		
桃山			子建西堂			
			龍安寺	西本願寺	汲月亭	
江戸	小堀遠州					
	金地院	② 広大な池	大徳寺	美の系譜	⑤ 幾何学模様	
	仙洞御所	桂離宮	玉淵		金地院	
	後楽園	仙洞御所	円通寺	二条城	仙洞御所	
	岡山後楽園	後楽園	福田寺	上田宗箇		
	六義園	岡山後楽園	東海庵	玄宮園		
		六義園	久留島家	楽々園		
		泉庭園の系譜	山水	青岸寺		
		小川治兵衛		赤田氏		ヨーロッパ公園思想
明治～平成	飯田十基	無鄰庵	庭園系譜	重森三玲	東福寺	ヨーロッパ抽象主義
		平安神宮	東福寺	小河家	友琳会館	
			岸和田城	瑞峯院	石像寺	
			興禅寺	豊国神社	福地院	
			松尾大社	織田家		

日本庭園の全体像の把握

各系譜の区分の考え方

5つの系譜に大きく区分し、其々を更に幾つかに細分化し、時代の思想と造形について記述し、かつ画像で具体的な庭園を例示する。

①神仙蓬莱庭園の系譜

道教の影響下に形成された神話で、不老不死、亀島、鶴島である。庭園に反映されたのは秦の始皇帝で、さらに漢の武帝である。日本では飛鳥時代に始まるが、不老不死への願いと、縁起が良いとのことで現代まで続いているテーマである。

②広大な池泉庭園の系譜

広大な敷地の池泉庭園ですが、各時代の風俗や宗教の影響を受け時代ごとに主体となる造形が変化いたします。その原点は奈良時代の極楽浄土の庭の庭に始まり、平安時代になると寝殿造りの庭になり、江戸時代には宮廷の庭や大名の庭になり、大正時代には自然主義風景の庭に変化いたします。

詳細区分は

【①極楽浄土の庭・②寝殿造りの庭・③宮廷の庭・④大名の庭・⑤自然主義風景の庭】

③抽象枯山水庭園の系譜

平庭式抽象枯山水庭園ですが、白砂に石を散在させる龍安寺様式の庭園です。このタイプの庭も細かく見ますと、時代とともに変化いたします。即ち、禅宗のもたらされた鎌倉時代から龍安寺に至る庭、次には江戸時代までの庭、現代における重森の庭に区分できると思います。このタイプの庭は見るものに深く考えさせる庭で静謐な雰囲気です。この庭こそは日本庭園の辿ってきた頂点の庭といえると思います。

詳細区分は【①禅宗の舶来～龍安寺に至る迄・②龍安寺以降～江戸時代・③重森三玲】

④石組み構成美庭園の系譜

自然石の組合せにより雄渾な空間構成を形成する庭園です。自然石を組み合わせて新たな造形美を見出す手法は日本庭園の醍醐味といえると思います。石組みを楽しむ庭は飛鳥時代からあるのですが、植栽を伴わなくて純粹に石の造形を楽しむのですから、水墨画の精神に通じていると思います。戦国時代に始まる石組みを楽しむ風潮は従来からあった造園手法のタブーから解放された力強い造形美を生み出します。

詳細区分は【①戦国武将の庭・②安土桃山時代の庭・③石組み構成美の庭】

⑤幾何学模様・グラフィックな造形庭園の系譜

小堀遠州の金地院や旧仙洞御所に端を発した幾何学模様の庭は、一時衰退いたしますが、昭和時代になって重森三玲がこの種の庭園を多く作りました。小堀遠州の庭も江戸時代では受け入れがたかったのですが、重森の個性的な庭においても「賛否両論」と評価が分かれます。しかし日本庭園としての歴史は浅いのですが、欧米では比較的好意的に評価されているのは、「造形」という人類の普遍的な価値に適うからではないでしょうか。